

第44回 世界遺産検定 マイスター試験 講評 および 学習方法

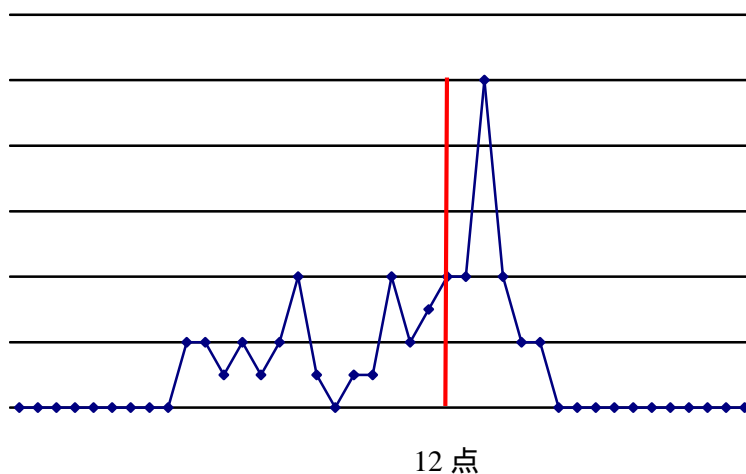
1. 実施概要 2. 認定点と分布 3. 問題 4. 総評 5. 各問の短評と学習法

1. 実施概要

検 定 日：2021年7月4日（日）
検定会場：東京・名古屋・大阪
検定時間：120分
解答形式：論述形式（記述）
申込人数：59名
受検人数：52名
認定者数：25名（認定率48.1%）

2. 認定点

認定点：12点（20点満点）
最高点：14.5点
最低点：5点



3. 問 題

1 次の語句を簡潔に説明しなさい。

1. 登録基準（viii）
2. 文化的景観
3. 緊急的登録推薦

2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。

顕著な普遍的価値 従来とは異なる新たな破壊の脅威
教育・広報活動 機能・役割

3 「北海道・北東北の縄文遺跡群」のような先史時代の遺跡の登録も増えてきている中で、地中にしか残されていない資産をどのように展示、紹介するのが課題になっている。三内丸山遺跡のような立体展示が「相応しくない」と考えられる理由と、そうした「見ることができない」遺産をどのように展示、紹介することが可能なのか、具体的な遺産の例を取り上げながら、1,200字以内で論じなさい。

4. 総 評

今回は全体的にレベルが高く、合否の差も僅かであった。特に1と2は合格ラインに達している受検者が多かった。また今回は3も例年に比べて受検者のレベルに差があまりなく、得点分布でも合格ライン前後に点数が集中した。しかし、とび抜けて優れた解答というものもなく、どの解答もあまり差が出ない内容であったことは残念であった。答えにくい内容であったとしても、独自の視点で意見を述べられている解答には高い得点が与えられたが、「見ることができない」遺産をどのように展示することが可能なのか、読者を納得させるにはあと一歩足りないものが多かった。1,200字というある程度の文字数がある時は、読み手を納得させる熱量というものも必要であると再認識させられた。

5. 各問の短評と学習法

1

短評：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。「緊急的登録推薦」では、OUV が明らかな暫定リスト記載の遺産である点と、世界遺産リスト記載と同時に危機遺産リストにも記載されることが書かれている必要がある。片方だけの内容では十分な説明とは言えず、短い言葉で要点が抑えられている解答に高得点が与えられた。

学習法：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句をはずさないようにする。間違っていないが本質ではない点をいくら並べても説明としては不十分なので、学習の際には、それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむことが重要である。

2

短評：指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。前回に引き続き指定語句をただ羅列しただけの解答は点数が低くなる。「教育・広報活動」という指定語句を入れる場合、どのような教育・広報活動が、なぜ必要とされているのかなどが書かれていないと、指定語句を用いて説明しているとは言えない。また、「従来とは異なる新たな破壊の脅威」というのは、世界遺産条約の前文に書かれている言葉で、現在の「新たな脅威」とは異なる状況であることも考慮する必要がある。しかし、現在の脅威が解答に含まれているとしても、それが世界遺産条約の説明として、全体の流れを崩すものでない場合は点数が与えられた。

学習法：書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくといよい。また「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのためには、**文章ではなく語句で覚えておき**、問題に合わせて語句を組み合わせるようにするのが重要である。また、指定文字数の 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

短評：「北海道・北東北の縄文遺跡群」の三内丸山遺跡でなされているような立体展示が、真正性の観点や、研究がし尽くされているとは言えない先史時代の遺跡のイメージの固定につながる点などから「相応しくない」と考えられることが書かれている解答は、その後の「見ることができない」遺産の展示、紹介の可能性についても論理的に解答できている傾向にあった。また VR などのデジタル技術の活用を挙げる回答も多かったが、デジタル技術を用いると誰にとって何が良いのか、その資金はどのように調達可能なのかなどが書かれている解答は高得点となり、ただ言及しただけの解答とは点数に差が出た。

学習法：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、全体を見ながら、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。世界遺産条約から大きく外れた出題はないので、ある程度共通して使える要素も準備しておくといよい。論述問題では「**正解**」というものはない。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。